

歴史散歩

文——多古町郷土史の会

◆第23話◆

成等山正覚寺

島二三〇番地一にある日蓮宗不受不施派の寺です。

境内入口に建つ山門の額には「成等山」と刻まれており、その山門前と本堂前庭には、歴史を感じさせる銀杏の老樹がそびえ立っています。

本堂左側に建つ白塗りの宝蔵庫には、文安五年（一四四八）ごろからの古文書や曼荼羅などが収められており、その手前にある見事な瓦葺きの鐘突き堂と釣り鐘は、共に昭和五十五年六月に建てられたものです。

また境内には、その歴史の深さを物語る重厚な一對の灯ろうや、地元出生の歌人・田辺はるの歌碑のほか、石碑や石塔などが数多く建ち並んでいます。



成等山正覚寺本堂



境内入口の山門と銀杏の老樹



見事な鐘突き堂と釣り鐘



地元出生田辺はるの歌碑

八幡大神

島二八六三番地に祀られている旧島村の鎮守で、古城跡の西端に位置しています。

村全戸が日蓮宗不受不施派で、お祖師様以外の神仏に頼らない時代が長かったためか、社の記録が失われたらしく、由緒を記した文書は残されていないとのこと。

近年補修された長い石段を上り切ると、朱色に塗られた鳥居の奥に老木に囲まれた本殿が閑静なたたずまいを見せています。

本殿前には、高さ一八メートルほどの灯ろう一對が建てられており、また境内入口には、高さ三十センチほどの手洗いと古い木造の鳥居があつて、奥に建つ本殿をより一層引き立たせています。



境内入口の手洗いと古い木造の鳥居



朱色に塗られた鳥居の奥に建つ八幡大神本殿



効率の良い投資術

『胃がん検診と大腸がん検診』

文／国保多古中央病院 内科 宇都宮隆法

天気も良く、夏が近づいているのに元気がないのは近ごろの不景気で株価が下がり、大切な資産を減らしてしまつた多古太郎さん(仮名)です。「まさか、こんなに価格が下がるなんて…。大もうけしなくてもいいから安全な投資ついでですかねえ」わたしなら、こつ答えます。



〔病院便り〕
病院には検査の機械があります。が、電気代などの費用も掛かるため夜間や週末は動いておらず、その時間帯は十分な検査はできません。体調が悪いと感じたら、夜遅くではなく、お日様が高いうちに受診していただければ、より良い体制で診療を受けられます。



からだ
ワンポイント



がん検診で早期がんが見つかったら、すぐに治療したよ。わたしにとって、がんは話の種さ。

どちらも放っておくと命にかかわるものですが、早期がんであれば、治療による生活の不自由もぐつと少なく済みます。



体調が悪くて病院に行ったらがんが広がっていた。何度も手術して治療は何とか終わったけど、これから東京に毎月4回も通うなんて…。家のローンも抱えているのに健康の心配までとは…。

本の森

「わたしの一冊」

本の好きな方なら一度は読んでほしい時代小説『密命』を紹介します。

この『密命』はシリーズ物ですが、一話完結になっているので、どこから読んでも大丈夫。さらっと読めるので時代小説のスタートにもお勧めです。



本植人：柴田晴美さん(一鎌田)

わたしにとって最も心が癒やされるのが読書の時間。日中のちよつと落ち着いたときや、就寝前が癒やしの時間です。

主人公は、剣は強いが不器用で、下町の長屋にいろいろな人情の厚い男・金杉惣三郎。剣技の迫力はもちろんですが、江戸や武家社会に生きる人たちが人情味あふれていて、生き生きと描かれているのが読みどころだと思います。

多古町にお住まいの方で、まだ町の図書室をご利用になつたことがない方、せつかつた皆さんの本があるのにもつたない。積極的に利用して、心も体もリフレッシュしてみませんか？

12年目



『密命 見参！寒月霞斬り』
作：佐伯泰英
発行：祥伝社文庫

〔あらすじ〕
豊後相良藩(架空)の蔵書から消えた禁制の「切支丹本」を取り戻すよう藩主から密命を受けた金杉惣三郎は、江戸で暮らしながら手掛かりを追うが…。豪商札差の娘・お杏などを配し、江戸のまちを闊達に描く新剣豪小説。

今回紹介した本は、町公民館内の図書室に置いてあります。リクエストにもお応えしますので、お気軽にご利用ください。
■多古町公民館図書室
☎ 79-3406
開館時間：午前8時30分～午後5時
※7月の休館日：20日(月)

多古中央病院から